

---

## 風俗店勤務の女性が発見した第2期梅毒の1例

### プライベートケアクリニック東京 東京院院長 小堀善友

2022年11月10日 16:21

🗨️ 14

梅毒が流行している、というニュースを最近よく耳にするようになった。ところで、読者の皆さまは梅毒患者に遭遇したことがあるだろうか？そして、視診だけで梅毒と診断できるだろうか？今回紹介するケースは、性風俗店で働く女性が客として来店した男性を梅毒と疑って、われわれのクリニックを受診させたことで診断につながった、という珍しい症例である。



## 東京都内の性感染症クリニックの実態

私は、2年前までは埼玉県内の大学病院で泌尿器科と生殖医療の専門医として働いていた。現在は、東京都内で性感染症（STD）と男性医療を専門とするクリニックの院長をしている。

大学病院と都内のSTDクリニックでは患者層のギャップが非常に大きく、驚くことも多い。いうならばSTDクリニックは、超暴利闇金融会社の客とその関係者とのやり取りを描いた漫画『闇金ウシジマくん』（真鍋昌平著、小学館）に出てくるさまざまな登場人物のような患者さんが、たくさん受診してくる（悪い意味ではなく、人種が違うということ）。

例えば大学病院に勤務していた時代の患者は、がんや前立腺肥大症を患う高齢者が多かったのだが、現在はギャルやホストといった若年者や、sexual activityが高い元気な人を多く診察するようになったのだ。先日は、「コロナなんて終わりでしょ。ワクチンなんて1回も

打ってないっすよ～。でも、コロナに3回感染したけど」とのたまった淋菌性尿道炎治療希望のホストを診察して、仰天してしまった。

## 症例の概要：てのひらや足裏の皮疹で梅毒疑いを指摘

さて、当院には性風俗店で働く女性（Commercial Sex Worker ; CSW）が定期的にSTDの検査を受けに来院する。だいたい月に1回のペースで来院してもらっているのだが、当院の診療に満足しているCSWにはごひいきにもらっている。そんな女性受診者の1人が性風俗店で対応した客を梅毒と疑ったという症例で、実際に第2期梅毒だったのだ。

## 患者背景・臨床経過・結果：過去に性風俗店を定期的を利用

症例は30歳代男性、既往歴なし。性風俗店に行った際に、体幹部にある皮疹をCSWに指摘された。CSWにてのひらと足の裏を見せるように指示されて、それぞれ皮疹があることに初めて気付いたという（写真）。

写真. 初診時の皮膚所見〔てのひら、足の裏に乾癬に似た皮疹（梅毒性乾癬）を認める〕



（小堀善友氏提供）

そのCSWは当院で定期的に梅毒検査を受けており、「この皮疹は梅毒だと思うから、この病院に行った方がいい」と勧められ、結局、その日は性行為をしなかったとのことだった。

症例はすぐに当院に来院した。過去に性風俗店を定期的利用していたというエピソードと、体幹部のバラ疹と手掌の梅毒性乾癬を見て、梅毒の可能性が非常に高いと考えた。

梅毒の即日検査で、TP定性検査が陽性であることを確認し、第2期梅毒と診断した。早期梅毒であったことから、ベンジルペニシリンベンザチン240万単位を1回注射したのみで、治療は終了した。1カ月後の定量検査でRPR値が初診時の半分に低下したため、治癒したものと判断して、以降の性行為を許可した。現在、定期的にRPR値をフォローしている。

## 考察：てのひらにある皮疹には注意

実は、てのひらに皮疹ができる疾患は意外と少ない。手白癬や、掌蹠膿疱症などの皮膚疾患もあるが、梅毒でも呈することから要注意である。

診断のポイントとして、梅毒の皮疹はさまざまな形を示すことがあるので、見た目の診断よりも、患者の性行為のエピソードを詳しく聴取する必要がある。例えば、不特定の相手と関係を持ったとか、性風俗店を利用したエピソードがあり、手や体に皮疹があれば、十分に梅毒が疑われる。

ご存じの方もいらっしゃると思うが、梅毒の感染者数は近年増加傾向にある。今年（2022年）10月23日時点で1万141人の感染が報告されて、ついに1万人を超えてしまった。この数は、現在の調査方法となった1999年以降では最多となる。患者の過半数は、性風俗店を利用した男性または女性のCSWであることが、調査により判明している。

最近では、CSWもきちんとSTDの勉強をしていて、「このような症状は梅毒かもしれない」ということを知っている。今回紹介したのは、医師でも初診でここまではっきり梅毒を疑って専門医に紹介することはなかなか難しいのではないかと、という脱帽した症例であった。当の男性患者にとっては、STDと感染防止策を知る良い経験になったと思われる。

しかし、これで懲りない人もたくさんいる。梅毒は、治癒したとしても再感染すると再び治療が必要になってしまう。私は、これまで何人も複数回梅毒に感染した患者を診てきた。性的に元気があるのはいいのだが、せめて感染リスクを下げる予防を心がけていただきたいものだ。

### 関連タグ

#泌尿器科

#皮膚科

#総合診療

#感染症

#リスクマネジメント

#性医学全般

#性感染症

#梅毒